

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 関東財務局長

**【提出日】** 平成26年3月14日

**【四半期会計期間】** 第72期第3四半期  
(自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日)

**【会社名】** 株式会社アイレックス

**【英訳名】** AIREX INC.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 畑 徹

**【本店の所在の場所】** 東京都中央区日本橋本町四丁目8番14号

**【電話番号】** (03) 3245-2011

**【事務連絡者氏名】** 常務取締役管理本部長 兼 西日本事業部長 榎 恒 久

**【最寄りの連絡場所】** 東京都中央区日本橋本町四丁目8番14号

**【電話番号】** (03) 3245-2011

**【事務連絡者氏名】** 常務取締役管理本部長 兼 西日本事業部長 榎 恒 久

**【縦覧に供する場所】** 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

##### 連結経営指標等

回次		第71期 第3四半期 連結累計期間	第72期 第3四半期 連結累計期間	第71期
会計期間		自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日	自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日	自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日
売上高	(千円)	2,487,029	2,829,922	3,495,610
経常利益又は経常損失( )	(千円)	16,001	116,410	80,892
四半期純利益又は四半期(当期) 純損失( )	(千円)	75,297	78,093	29,485
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	68,362	98,800	4,846
純資産額	(千円)	551,399	580,461	481,660
総資産額	(千円)	1,308,332	1,553,217	1,483,748
1株当たり四半期純利益金額又は 四半期(当期)純損失金額( )	(円)	2.56	2.66	1.00
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)		1.54	
自己資本比率	(%)	31.39	37.37	32.46

回次		第71期 第3四半期 連結会計期間	第72期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日	自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日
1株当たり四半期純利益金額又は 四半期純損失金額( )	(円)	0.11	2.39

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第71期及び第71期第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等はありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて、重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間における我が国の経済は、輸出が持ち直しに向かい、各種政策の効果が発現するなかで家計所得や投資の増加傾向が続く一方、輸入は、貿易・サービス収支の赤字増加傾向にあります。生産は、緩やかに増加し、企業収益や雇用情勢は改善しています。景気は、個人消費を中心に回復の動きが確かなものとなることが期待されますが、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要及びその反動が見込まれます。

世界経済においては、弱い回復が続いているものの、底堅さが増しています。但し、米国の金融緩和縮小による影響、中国やその他新興国経済の先行きや欧州政府債務問題に留意する必要があり、我が国経済を下押しするリスクとなっています。

情報サービス業界におきましては、ソフトウェア受託開発及びシステム等管理運営受託の分野では概ね横ばい傾向にあり、ソフトウェアプロダクツの分野では前年同期比で減少傾向に推移しております。

このような企業環境下で、当社グループは、グループ内各社の強みを生かし、その連携を強固にして、「先端技術への取り組み」「新規市場開拓の推進」「積極的なトータルソリューション提案」に全力投球すべく、体制・組織強化を強力に推進しております。

他方、組織横断でグループ内での情報共有を強化し、受注機会の「見える化」を図り、上流工程、下流工程を含めたトータルソリューション提案を行い、ビジネス拡大を推進しております。

また、当社は、平成25年6月10日付で平成24年3月期及び平成25年3月期の訂正報告書等を提出したにもかかわらず、平成25年11月15日付「不適切な会計処理が行われていた可能性についてのお知らせ」で公表しました通り、過年度の仕掛品の一部に資産性のないものが計上されていたことから、平成25年11月22日付「第三者委員会の設置に関するお知らせ」で公表しました通り、不適切な会計処理の調査のため、日本弁護士連合会「企業等不祥事における第三者委員会ガイドライン」の主旨を踏まえて、当社と利害関係のない外部有識者である弁護士2名と公認会計士1名で構成する第三者委員会を設置し、類似事案の有無も含めて、徹底的な調査を実施しました。また、この調査に多くの時間を要し、第3四半期報告書の通常の提出期限内に調査を終了させ、当該調査結果を反映させた報告書を提出することができないため、平成26年2月7日付「平成26年3月期第3四半期報告書の提出期限延長に係る承認申請書提出に関するお知らせ」で公表しました通り、提出期限の延長申請を行い、平成26年2月13日に、関東財務局から提出期限延長の承認を受けました。第三者委員会の調査結果については、平成26年3月7日付で第三者委員会から調査報告書を受領し、同日に適時開示しております。提出期限を延長する事態となったことにつき、株主の皆様はじめ関係各位に、多大なご心配とご迷惑をおかけしましたことを、深くお詫び申し上げます。

当社は、平成25年6月10日付「第三者委員会の調査報告書受領に関するお知らせ」で公表しました改善対策を実行し、平成26年3月期からは、適切な会計処理を実行しておりますが、今回の新たな第三

者委員会の調査報告書を受け、同報告書内に記載されている提言を真摯に受けとめるとともにこれまでの改善対策を見直し、再度、以下の再発防止強化策を作成いたしました。今後、以下の再発防止強化策を全社一丸となって実行し、二度とこのようなことを起こさないコンプライアンス重視の経営を強力に推進してまいります。

## ア.コーポレート・ガバナンス強化

### 1)取締役会の監視機能の回復

#### 社外取締役の選任

独立性が高くかつコンプライアンスの知識及びその重要性の理解を有する有識者を社外取締役に選任することにより、取締役会での議論の充実を図るとともに、経営の意思決定にチェック機能をもたらしよう努めます。

取締役会が取締役の業務執行について十分な監視機能を果たせるよう、各取締役の業務上の権限及び取締役会の審議事項の内容を再度見直し、明確化、充実を図ります。

### 2)監査役及び監査役会の監視機能の実質化

監査役会の開催頻度を増やすとともに、より実効的な監査役機能を果たすため、監査役には、システム部門、営業部門で開催する営業会議等の実務者レベルでの会議体への出席を要請します。

監査役会による取締役の業務執行の監視機能を果たすために、定期的に監査役会主導の会議体を開催し、その時々々の必要に応じ、代表取締役社長等の参加を求め、内在するリスクを監視し、監査役会でも協議し、適時取締役会に報告するとともに、実施状況の報告を求めるよう改善します。

内部監査室及び新設する経営改革推進室と連携し、問題点等の共有化、検討、問題解決への提案も含めた積極的な改善提案等までできるよう機能強化を図ります。

### 3)経営改革推進室の設置

内部環境の分析から経営計画(予算作成から営業、人材戦略まで含む)の策定・推進までをこなす部署を新設します。

コンプライアンス推進機能を持たせ、社員及び役員へのコンプライアンス研修の立案と対策実行の推進、内部通報制度を徹底するための対策立案と推進を実施します。

経理部、業務管理部、人事総務部と東日本・西日本事業部の業務執行状況を把握し、内部統制の視点から、改善対策を立案し、社長の指示のもと、会社全体の改善対策実行を推進します。

## イ.コンプライアンス態勢構築・強化

### 1)コンプライアンス教育

これまで実施してきた研修を見直し、取締役を含む社員の各階層及び各業務に即した更に実効性のあるコンプライアンス教育・研修を実施します。

自社の業務内容に沿った形で適切な業務プロセス及び具体的な会計知識を習得させるため、各職種に応じた研修体系の構築について検討し、実施します。

本社役職員が各拠点での担当者の会議に参加し、行動規範解説書を配布し、コンプライアンス教育を行います。またコンプライアンス意識の啓蒙のためのポスターを掲示等の啓もう活動を実施します。

### 2)経営者によるコンプライアンス重視の姿勢

経営陣が各拠点を巡回し、コンプライアンスの遵守のメッセージを直接伝えますとともに、上司の命令に反してもコンプライアンスを守って行動した従業員は必ず身分が保護される旨の宣言を行います。

### 3)内部通報制度の充実

当社では、通報窓口を設置しており社員に周知しておりましたが、これまで通報の実績はありませんでした。今後は、通報者に決して不利益は課さないと経営者から定期的に宣言し、社員が安心して利用できるような環境づくりに努めます。

内部通報を利用しやすい環境とするため、通報窓口を自社と弁護士だけではなく、親グループ会社のコンプライアンス専用窓口を選択肢に加え、社員に周知します。

#### 4) コンプライアンス強化を目的とする専門部署の設置

コンプライアンス推進・啓蒙の機能を経営改革推進室に持たせ、コンプライアンス強化策の推進や各制度の実効性までをモニタリングする等、計画的な推進体制及び監視機能の強化を図ります。

### ウ. 業務プロセス等における有効な再発防止策

#### 1) 勤務記録の管理

平成25年第1四半期から、勤務記録の記入、訂正について、本人の自筆サインと押

印を必須として勤務表改竄ができないように対策しておりますが、更に、勤務表に記載されるプロジェクトコードの記入の正確性強化の観点から、現場の作業担当者が記入すべきプロジェクトコードを全社で一元管理し、稼働中プロジェクト一覧表として開示し、各作業担当者に対して、当該一覧表を使用して記入させるように改善します。

また担当者が記入したプロジェクトコードに誤りがないことを検証するため、稼働中プロジェクトの一覧表の管理シートと、勤務表記載内容を突合してチェックすることといたします。

#### 2) 財務会計データの精度の向上と有効活用

プロジェクト管理、経理データの整合性確保及び情報の一元管理を、更に徹底するために、現状における問題点を抽出するとともに、経営・管理の観点からの必要情報の洗い出しを行い、必要情報を正確に入手できるよう対策立案と対策実行を行い、財務データの精度向上と有効利用を図ります。

#### 3) 経理部人員の増員

経理部門の人員を増員強化し、各部署から提出される経理基礎資料の適切性に目を光らせ、各部門への管理機能の強化を図ります。

#### (4) 予算の精度の向上

財務データの有効活用のため、必要な会計情報の見直しを行い、経営に資するデータ管理の再構築を実施します。

原価計算方法の見直し、経費発生の見直し、月次分析の強化を行い、異常な点については、担当責任者へのヒアリング確認等を行うことにより牽制を図ります。

内外の事業環境等の情報収集、分析等につきましては、経営改革推進室で実施いたします。

#### 5) 内部監査室による監視の強化

内部監査強化のために、専従者を確保します。

内部監査室の業務内容、実施手続きの見直しを行い、これまでの形式的なチェックから、現地を訪問してのヒアリング、証憑突合等に重点を置いた手続きへの移行、さらに不適切な行為や業務プロセスの不備の発見、是正に主眼を置いた業務遂行を更に加速推進いたします。

監査役、経営改革推進室との連携を深め、内部監査機能の強化を図ります。

当社は、この度の不適切な会計処理を未然に防止することができず、投資家の皆様をはじめとする関係者の皆様には、多大なるご心配とご迷惑をおかけすることとなり、誠に申し訳なく存じております。

今後はコンプライアンスを徹底し、当社の役職員が一丸となって信頼回復に取り組む所存でございます。何卒ご理解を頂きまして、今後ともご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

#### 売上高及び営業利益

当第3四半期連結累計期間における当社グループは、グループ全体での連携を強化し、得意分野である通信関連、業務アプリ関連等のソフト開発案件及びシステム構築・評価案件の受注活動に注力した結果、売上高は前年同四半期と比べ342,893千円(13.8%)増加し2,829,922千円となりました。また、営業利益は110,367千円(前年同四半期は営業損失22,594千円)となりました。

#### 経常利益

営業外損益では、受取配当金、受取賃貸料等の営業外収益が8,755千円ありましたが、営業外費用で支払利息等が2,712千円あり、その結果、当第3四半期連結累計期間の経常利益は116,410千円(前年同四半期は経常損失16,001千円)となりました。

#### 四半期純利益

特別損益では、役員退職慰労引当金戻入額等の特別利益が12,919千円ありましたが、特別損失で過年度決算訂正関連費用等が28,085千円あり、また、法人税等を23,149千円計上したことにより、当第3四半期連結累計期間の四半期純利益は78,093千円(前年同四半期は四半期純損失75,297千円)となりました。

なお、当社グループの事業は、システム開発並びにこれらの付随業務を事業内容とする単一セグメントであるため、セグメント別の状況は記載しておりません。

### (2) 財政状態の分析

#### (資産)

流動資産は、売掛金等が減少しましたが、現金及び預金や仕掛品等が増加し、前連結会計年度末より44,764千円増加し1,162,256千円となりました。

固定資産は、投資有価証券の時価上昇による増加等により、前連結会計年度末より24,704千円増加し390,960千円となりました。

その結果、資産合計は前連結会計年度末より69,468千円増加し1,553,217千円となりました。

#### (負債)

流動負債は、買掛金や賞与引当金等の減少により前連結会計年度末より107,750千円減少し597,803千円となりました。

固定負債は、関係会社長期借入金の増加等により78,418千円増加し374,952千円となりました。

その結果、負債合計は前連結会計年度末より29,331千円減少し972,755千円となりました。

#### (純資産)

純資産は、投資有価証券の時価上昇によりその他有価証券評価差額金が20,707千円増加し、また、四半期純利益78,093千円の計上により、前連結会計年度末より98,800千円増加し580,461千円となりました。

### (3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

### (4) 研究開発活動

該当事項はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	165,669,000
A種優先株式	16,000,000
計	181,669,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年3月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名 (株)東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	内容
普通株式	29,417,400	29,417,400		(注)1、2
A種優先株式 (注)3	16,000,000	16,000,000		(注)4、5、6
計	45,417,400	45,417,400		

(注)1. 完全議決権株式であり、株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式であります。

2. 単元株式数は1,000株であります。

3. 当該A種優先株式は、企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第8項に規定する行使価額修正条項付新株予約権付社債券等であります。

4. 当該A種優先株式の特質

(1) 割当株式数が増減される旨

当該A種優先株式は、当社普通株式の株価の下落により取得価額が修正され、取得請求権の行使により取得と引換えに発行する普通株式の数が増加いたします。

(2) 割当株式数又は取得価額修正の基準及び修正の頻度

当該A種優先株式の取得請求期間は平成23年3月1日以降とし、取得価額は平成24年3月1日以降、毎年3月1日(以下、それぞれ「取得価額修正日」という。)に、各取得価額修正日に先立つ45取引日目に始まる30取引日の(株)東京証券取引所における当社の普通株式の普通取引の毎日の終値(気配表示を含む。)の平均値(終値のない日数を除く。)に修正されるものであります。

(3) 取得価額修正の下限及び取得発行により発行すべき普通株式数の上限

取得価額修正の下限は25円であり、取得発行により発行すべき普通株式数の上限は64,000,000株であります。

(4) 当社の決定による当該A種優先株式の全部又は一部の取得を可能とする旨の条項の有無

当社は、平成21年3月1日以降、いつでも当該A種優先株式の全部または一部を次に定める金銭と引換えに取得することができます。

取得と引換えに株主に交付する財産の内容

株式を取得すると引換えに交付する財産は金銭とし、当該A種優先株式1株につき交付する金銭の額は発行価額に1.05を乗じた価額といたします。

5. A種優先株式の内容は以下のとおりであります。

- |                 |                  |
|-----------------|------------------|
| (1) 種類株式の名称     | 株式会社アイレックスA種優先株式 |
| (2) 発行株式数       | 16,000,000株      |
| (3) 発行価額        | 1株につき 金100円      |
| (4) 発行価額の総額     | 1,600,000,000円   |
| (5) 発行価額中の資本組入額 | 1株につき 金50円       |
| (6) 資本組入額の総額    | 800,000,000円     |

- (7) 申込期日 平成18年2月27日
- (8) 払込期日 平成18年2月28日
- (9) 配当起算日 平成17年4月1日
- (10) 発行方法 第三者割当の方法により、引受人に割り当てる。
- (11) 継続保有に関する事項 該当なし
- (12) 剰余金の配当
- (イ) A種優先株式を有する株主(以下「A種優先株主」という。)またはA種優先株式の登録株式質権者(以下「A種優先登録株式質権者」という。)に対し、普通株式を有する株主(以下「普通株主」という。)または普通株式の登録株式質権者(以下「普通登録株式質権者」という。)に先立ち、A種優先株式1株につき2円を上限として優先的に配当金(以下「優先配当金」という。)を支払う。
- (ロ) 中間配当は行わない。
- (ハ) ある事業年度における優先配当金の不足額は、翌事業年度以降に累積しない。
- (ニ) A種優先株主またはA種優先登録株式質権者に対しては、優先配当金の額を超えて配当は行わない。
- (13) 残余財産の分配
- 当社は残余財産を分配するときは、A種優先株主またはA種優先登録株式質権者に対し、普通株主または普通登録株式質権者に先立ち、A種優先株式1株につき100円を支払う。
- A種優先株主またはA種優先登録株式質権者に対しては、前記のほか残余財産の分配は行わない。
- (14) 取得条項
- 当社は、平成21年3月1日以降、いつでもA種優先株式の全部または一部を次に定める金銭と引換えに取得することができる。
- 取得と引換えに株主に交付する財産の内容
- 株式を取得すると引換えに交付する財産は金銭とし、当該A種優先株式1株につき交付する金銭の額は発行価額に1.05を乗じた価額とする。
- (15) 金銭を対価とする取得請求
- A種優先株主またはA種優先登録株式質権者は、直近事業年度の貸借対照表確定時の法令で定める「分配可能額」から、2億円を控除した額を上限として、A種優先株式の全部または一部を取得することを請求することができる。
- 取得と引換えに株主に交付する財産の内容
- 取得の請求があったA種優先株式を取得すると引換えに交付する財産は金銭とし、A種優先株式1株につき金100円を交付する。ただし、分配可能額は直近事業年度の貸借対照表確定時に剰余金の分配をした場合は、当該分配額を分配可能額から控除した金額とする。
- 取得請求が可能な期間
- 平成21年3月1日以降とする。
- (16) 議決権
- A種優先株主またはA種優先登録株式質権者は、法令に別段の定めある場合を除き、A種優先株式について株主総会で議決権を有しない。
- (17) 株式の併合又は分割
- 当社は、法令に定める場合を除き、A種優先株式について、株式の併合又は分割は行わない。
- (18) 新株引受権株式等の付与
- 当社は、株主に新株の引受権、新株予約権の引受権又は新株予約権付社債の引受権を与えるときは、各々の場合に応じて、普通株主には普通株式の、A種優先株主にはA種優先株式の、新株の引受権、新株予約権の引受権または新株予約権付社債の引受権を同時に同一割合で与える。
- (19) 普通株式を対価とする取得請求
- A種優先株主は、その判断により、上記(15)に代えて下記に定める条件に従い、下記に定める期間内に取得を請求することにより、1株につき、下記からに定める取得価額により、当社普通株式の交付と引換えにA種優先株式を取得するよう請求することができる。
- 取得請求が可能な期間
- 平成23年3月1日以降とする。
- A種優先株式と引換えに発行すべき普通株式数
- A種優先株式の取得により発行すべき普通株式数は、次のとおりとする。
- $$\text{取得発行により発行すべき普通株式数} = \frac{\text{A種優先株主が取得請求のために提出したA種優先株式の発行価額総額}}{\text{取得価額}}$$
- 発行株式数の算出に当たり1株未満の端数が生じたときは、これを切り捨てる。
- 当初取得価額
- 当初取得価額は50円とする。

#### 取得価額の修正

取得価額は、平成24年3月1日以降、毎年3月1日(以下、それぞれ「取得価額修正日」という。)に、各取得価額修正日に先立つ45取引日目に始まる30取引日の(株)東京証券取引所における当社の普通株式の普通取引の毎日の終値(気配表示を含む。)の平均値(終値のない日数を除く。)に修正される(修正後取得価額は円位未満小数点第2位まで算出し、その小数第2位を四捨五入する。なお、上記の時価算定期間の初日から取得価額修正日の前日までの日に、下記で定める取得価額の調整事由が生じた場合には、当該平均値は、下記に準じて取締役会が適当と判断する値に調整される。)。ただし、上記計算の結果、修正後取得価額が当初取得価額の50%(以下「下限取得価額」という。ただし、下限取得価額は、下記により取得価額が調整された場合は調整後取得価額を調整前取得価額で除した比率(以下「調整比率」という。)に応じて調整される。下限取得価額は、円位未満小数点第2位まで算出し、その小数第2位を四捨五入する。)を下回る場合には下限取得価額をもって、また修正後取得価額が当初取得価額の150%(以下「上限取得価額」という。ただし、上限取得価額は、下記により取得価額が調整された場合は調整比率に応じて調整される。上限取得価額は、円位未満小数点第2位まで算出し、その小数第2位を四捨五入する。)を上回る場合には上限取得価額をもって修正後取得価額とする。

#### 取得価額の調整

当社は、A種優先株式発行後、本号に掲げる各事由により、当社の普通株式数に変更を生じる場合または変更を生じる可能性がある場合は、次に定める算式(以下「取得価額調整式」という。)をもって取得価額を調整する。

$$\text{調整後取得価額} = \text{調整前取得価額} \times \frac{\text{既発行普通株式} + \frac{\text{新発行・処分普通株式数} \times 1 \text{株当たりの発行・処分価額}}{\text{時価}}}{\text{既発行普通株式数} + \text{新発行・処分普通株式数}}$$

取得価額調整式によりA種優先株式の取得価額の調整を行う場合及びその調整後の取得価額の適用時期については、次に定めるところによる。

(イ)本号(口)に定める時価を下回る発行価額又は処分価額をもって普通株式を新たに発行または当社の有する当社の普通株式を処分する場合

調整後の取得価額は、払込期日の翌日以降、また、募集のための株主割当日がある場合はその日の翌日以降、これを適用する。

(ロ)株式分割により普通株式を発行する場合

調整後の取得価額は、株式分割のための株主割当日の翌日以降これを適用する。

ただし、配当可能利益から資本に組み入れられることを条件にその部分をもって株式分割により普通株式を発行する旨取締役会で決議する場合で、当該配当可能利益の資本組入れの決議をする株主総会の終結の日以前の日を株式分割のための株主割当日とする場合には、調整後の取得価額は、当該配当可能利益の資本組入れの決議をした株主総会の終結の日の翌日以降、これを適用する。

なお、上記ただし書の場合において、株式分割のための株主割当日の翌日から当該配当可能利益の資本組入れの決議をした株主総会の終結の日までに取得請求をなした者に対しては、次の算出方法により、当社の普通株式を新たに発行する。

$$\text{株式数} = \frac{(\text{調整前取得価額} - \text{調整後取得価額}) \times \text{調整前取得価額をもって取得により当該期間内に発行された株式数}}{\text{調整後取得価額}}$$

この場合に、1株未満の端数を生じたときはこれを切り捨て、現金による調整は行わない。

(ハ)本号(ロ)に定める時価を下回る価額をもって当社の普通株式に取得請求される証券もしくは取得できる証券又は新株予約権の行使によって発行される普通株式1株当たりの発行価額が時価を下回ることとなる新株予約権もしくは新株予約権付社債を発行する場合。

調整後の取得価額は、発行される証券又は新株予約権もしくは新株予約権付社債の全てが当初の取得価額で取得され又は当初の行使価額で行使されたものとみなして取得価額調整式を準用して算出するものとし、払込期日(新株予約権が無償にて発行される場合は発行日)の翌日以降これを適用する。

ただし、その証券の募集のための株主割当日がある場合は、その日の翌日以降これを適用する。

取得価額調整式により算出された調整後の取得価額と調整前の取得価額との差額が1円未満にとどまる限りは、取得価額の調整はこれを行わない。ただし、この差額相当額は、その後取得価額の調整を必要とする事由が発生した場合に算出される調整後の取得価額にそのつど算入する。

(イ)取得価額調整式の計算については、円位未満小数点第2位まで算出し、その小数第2位を四捨五入する。

(ロ)取得価額調整式で使用する時価は、調整後の取得価額を適用する日(ただし、本号(ロ)ただし書の場合は株主割当日)に先立つ45取引日目に始まる30取引日の(株)東京証券取引所における当社の普通株式の普通取引の毎日の終値(気配表示を含む。)の平均値(終値のない日数は除く。)とする。この場合、平均値の計算は、円位未満小数点第2位まで算出し、その小数第2位を四捨五入する。

(ハ)取得価額調整式で使用する既発行普通株式数は、株主割当日がある場合はその日、また株主割当日がない場合は、調整後の取得価額を適用する日の1か月前の日における当社の発行済普通株式数から、当該日における当社の有する当社普通株式数を控除した数とする。

当社は、本号の取得価額の調整を必要とする場合以外にも、次に掲げる場合には、取締役会が適当と判断する取得価額の調整を行うものとする。

(イ)株式の併合、資本の減少、吸収分割、新設分割または合併のために取得価額の調整を必要とするとき。

(ロ)その他当社普通株式数の変更または変更の可能性が生じる事由の発生により取得価額の調整を必要とするとき。

(ハ)取得価額を調整すべき事由が2つ以上相接して発生し、一方の事由に基づく調整後の取得価額の算出に当たり使用すべき時価につき、他方の事由による影響を考慮する必要があるとき。

取得請求受付場所

東京都千代田区丸の内一丁目4番5号

三菱UFJ信託銀行株式会社

取得請求の効力発生

取得請求の効力は、取得請求書及びA種優先株式の株券が、上記に記載する取得請求受付場所に到達したときに発生する。ただし、A種優先株式の株券が発行されていないときは、株券の提出は要しない。

(20) 取得請求後第1回目の普通株式への配当

A種優先株式と引換えに発行された普通株式に対する最初の利益配当金は、取得の請求が4月1日から9月30日までになされたときには4月1日に、10月1日から翌年3月31日までになされたときは10月1日に、それぞれ取得があったものとしてこれを支払う。

(21) 当社は、会社法第322条第2項に規定する定款の定めはありません。

(22) 議決権を有しないこととしている理由

資本の増強に当たり、既存の株主への影響を考慮したためであります。

(23) 単元株式数は1,000株であります。

#### 6. A種優先株式に係る欄外記載事項

(1) 企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第9項に規定するデリバティブ取引その他の取引の内容  
該当事項はありません。

(2) A種優先株式に表示された権利の行使に関する事項についての当該A種優先株式の所有者と当社との間の取決めの内容

A種優先株式について、当該A種優先株式に付された各種権利の行使に関する事項についての所有者との間の取決めはありません。

(3) 当社の株券の売買に関する事項についての、当該A種優先株式の所有者と当社との間の取決めの内容

当該A種優先株式の所有者は、当該A種優先株式の発行日である平成18年2月28日から5年間において、当該A種優先株式の全部または一部を譲渡した場合には、直ちに、譲渡を受けた者の氏名及び住所、譲渡株式数、譲渡日、譲渡価格、譲渡の理由、譲渡の方法等を、当社に書面により報告する旨の確約を得ております。

また、当該A種優先株式については、所有者が普通株式を取得請求するまでの期間において継続保有すること及び所有者が発行済株式総数の5%以上の当社株式を市場または証券会社以外に売却する場合、当社に対して事前通知を行なうこと、並びにその場合において、当社が同条件以上の買取先を斡旋する場合は、所有者は当社が指定する買取先に売却する旨の内諾を得ております。

(4) 当社の株券の貸借に関する事項についての、当該A種優先株式の所有者と当社の特別利害関係者との間の取決めの内容

当社の知る限り、当該取決めはありません。

(5) その他投資者の保護を図るため必要な事項

当該A種優先株式の所有者との間で、当該A種優先株式の内容を実質的に変更するような条件等の合意は特にありません。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成25年12月31日		45,417,400		80,000		20,000

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成25年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	A種優先株式 16,000,000		「1株式等の状況」の「(1)株式の総数等」の「発行済株式」の注記参照
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 7,000		株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式 単元株式数 1,000株
完全議決権株式(その他)	普通株式 29,401,000	29,401	同上
単元未満株式	普通株式 9,400		株主としての権利内容に制限のない、標準となる株式
発行済株式総数	45,417,400		
総株主の議決権		29,401	

- (注) 1. 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には証券保管振替機構名義の株式が1,000株(議決権の数1個)含まれております。  
2. 「単元未満株式」欄の普通株式には自己保有株865株が含まれております。

【自己株式等】

平成25年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社アイレックス	東京都中央区日本橋本町 四丁目8番14号	7,000		7,000	0.02
計		7,000		7,000	0.02

2 【役員 の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

(1) 新任役員

該当事項はありません。

(2) 退任役員

役名	職名	氏名	退任年月日
取締役	営業本部 西日本事業部長	西崎 義彦	平成25年12月31日

(3) 役職の異動

新役名及び職名	旧役名及び職名	氏名	異動年月日
常務取締役 管理本部長 兼 西日本事業部長	常務取締役 管理本部長	榎 恒久	平成25年12月31日

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成25年10月1日から平成25年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、聖橋監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	298,386	400,460
受取手形及び売掛金	766,738	652,824
商品及び製品	699	48
仕掛品	4,980	28,917
原材料及び貯蔵品	612	911
その他	46,180	79,185
貸倒引当金	106	91
流動資産合計	1,117,492	1,162,256
固定資産		
有形固定資産	75,683	74,547
無形固定資産	3,217	1,931
投資その他の資産		
投資有価証券	228,196	259,164
その他	61,813	57,971
貸倒引当金	2,654	2,654
投資その他の資産合計	287,355	314,481
固定資産合計	366,255	390,960
資産合計	1,483,748	1,553,217
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	289,859	218,724
短期借入金	200,000	200,000
未払法人税等	43,039	12,186
賞与引当金	74,482	42,329
その他	98,172	124,562
流動負債合計	705,553	597,803
固定負債		
関係会社長期借入金	140,000	190,000
退職給付引当金	120,333	144,767
役員退職慰労引当金	9,537	2,825
その他	26,662	37,359
固定負債合計	296,533	374,952
負債合計	1,002,087	972,755
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	80,000	80,000
資本剰余金	35,710	35,710
利益剰余金	317,155	395,248
自己株式	803	803
株主資本合計	432,061	510,155
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	49,598	70,305
その他の包括利益累計額合計	49,598	70,305
純資産合計	481,660	580,461
負債純資産合計	1,483,748	1,553,217



(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】  
【四半期連結損益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	2,487,029	2,829,922
売上原価	2,205,844	2,381,433
売上総利益	281,184	448,489
販売費及び一般管理費		
販売費	4,825	3,722
一般管理費	298,953	334,399
販売費及び一般管理費合計	303,778	338,121
営業利益又は営業損失( )	22,594	110,367
営業外収益		
受取利息	35	38
受取配当金	3,740	4,499
受取賃貸料	3,771	4,211
その他	23	5
営業外収益合計	7,570	8,755
営業外費用		
支払利息	978	2,602
その他	-	110
営業外費用合計	978	2,712
経常利益又は経常損失( )	16,001	116,410
特別利益		
投資有価証券売却益	1,637	4,948
役員退職慰労引当金戻入額	-	7,970
特別利益合計	1,637	12,919
特別損失		
投資有価証券評価損	220	-
投資有価証券売却損	-	20
過年度決算訂正関連費用	-	28,065
特別損失合計	220	28,085
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失( )	14,583	101,243
法人税等	50,858	23,149
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失( )	65,442	78,093
少数株主利益	9,855	-
四半期純利益又は四半期純損失( )	75,297	78,093

【四半期連結包括利益計算書】  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失( )	65,442	78,093
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,920	20,707
その他の包括利益合計	2,920	20,707
四半期包括利益	68,362	98,800
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	77,988	98,800
少数株主に係る四半期包括利益	9,625	-

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る減価償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)
減価償却費	3,588千円	2,421千円

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年12月31日)

当社グループは、システム開発並びにこれらの付随業務を事業内容とするシステム事業という単一セグメントであります。会社別の利益分析等は行っておりますが、事業戦略の意思決定、経営資源の配分等は当社グループ全体で行っているため、セグメント情報の開示は省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額 ( )	2円56銭	2円66銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額( ) (千円)	75,297	78,093
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純損失 金額( )(千円)	75,297	78,093
普通株式の期中平均株式数(株)	29,410,580	29,409,535
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額		1円54銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)		
普通株式増加数(株)		21,333,333
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前 連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 前第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年3月14日

株式会社アイレックス  
取締役会 御中

聖橋監査法人

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 松 田 信 彦 印

指定社員  
業務執行社員 公認会計士 永 田 敬 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社アイレックスの平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成25年10月1日から平成25年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成25年4月1日から平成25年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社アイレックス及び連結子会社の平成25年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。